

日経 デジタルヘルス

医療・健康・介護の技術革新で新産業を



デジタルヘルス事例

■ 記事一覧へ

内田洋行×ミナケアに学ぶ「データヘルス実践術」

大下 淳一 = 日経デジタルヘルス

2016/01/28 00:00

特定健康診査（特定健診）と診療報酬明細書（レセプト）のデータを突き合わせて分析し、被保険者の健康リスクを層別化することを通じて、効率的で効果的な保健事業につなげる「データヘルス」。厚生労働省が推進するデータヘルス計画の第1期が2015年度に始まり、すべての健康保険組合がその実施を求められている（関連記事1、同2）。

厚労省ではこれに先駆け、データヘルス計画のモデル事業「先進的な保健事業の実証等」を19の健保組合を対象に実施。2014年度にその1つに選ばれたのが、内田洋行とそのグループ会社が加入する内田洋行健康保険組合による「ICTを活用したデータヘルス実証事業」だ。医療の新しい姿を提唱するコンセプトリーダーとして知られる山本雄士氏率いるミナケアと連携（関連記事3）。ミナケアの保健事業支援システム「元気LABO」を基に、ICTを生かしたデータヘルス基盤「UCHIDA元気LABO」を共同開発し、その効果を実証した。



NEXT >> 生活習慣をウェアラブルで可視化

◀ 前のページ 3 4 5 6 7 次のページ ▶

内田洋行の秋山慎吾氏（向かって左）と
内田洋行健康保険組合の松井陽一氏（同右）



NHKニュース 2015.10.02
朝日新聞出版 2015.10.19
FNNニュース 2015.12.15
毎日新聞 2016.01.03

・生活習慣データ測定「デイリーサポート」
・京セラ／日本予防医学協会

日経電子版 2015.10.05
・7つの新しい保健事業に挑戦
（UCHIDA元気LABO活用）

日経「イモント」 2015.12.19
・全社で『健康経営』を推進中

アドレス

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/feature/15/327441/012600033/?ST=ndh>